

Ebbinghaus の図形¹

図 1 の Ebbinghaus の図形では、右側の大きい円に囲まれた円より、左側の小さい円に囲まれた円の方が大きく見えます。物理的にはどちらも同じ大きさですが、見た感じでは左の方が大きく見えます。

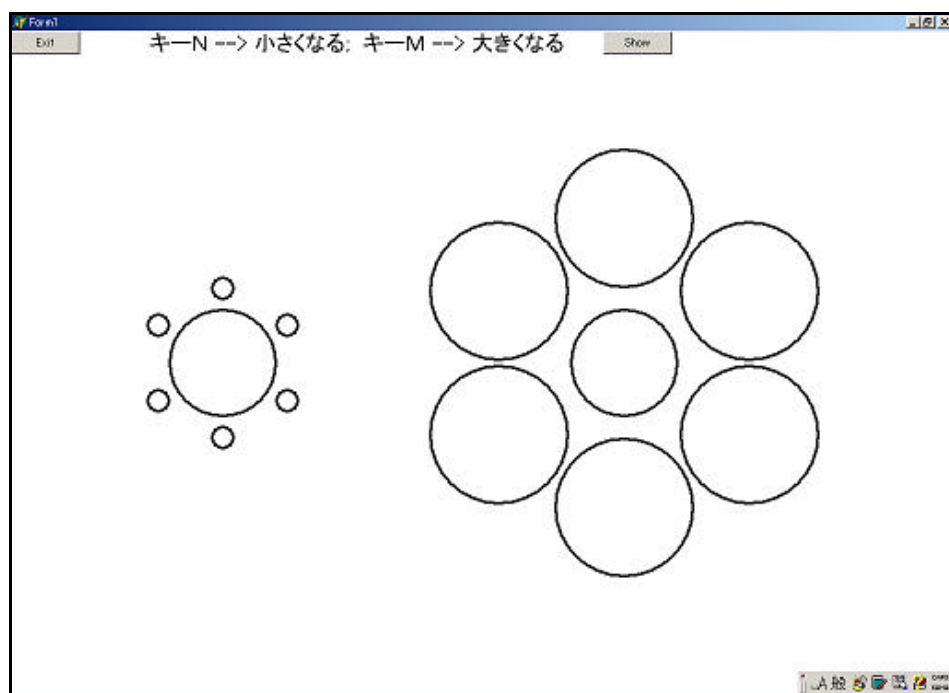


図 1 Ebbinghaus の図形

図 1 は、プログラム PEbbinghaus.dpr の実行によって表示されるものです。図 1 の画面において、左右の円が同じ大きさに見えるように調節してみます。

まず、プログラム PEbbinghaus.dpr を実行すると次図のフォームが表示されます。



¹ プログラムの解説は、岡本安晴「Delphi でエンジョイプログラミング：心と行動の科学がわかる心理学シミュレーション」、CQ 出版社、1999 を見て下さい。

フォームの「GO」ボタンのクリックで図1の画面になります。図1の画面の状態、「M」のキー、あるいは「N」のキーを押すと、左側の円の大きさが大きくなったり小さくなったりします。

2つの円の大きさが等しく見えたところで、画面の上の方にある Show ボタンをクリックします。Show ボタンのクリックで図2のように左右の円の直径がピクセル単位で表示されます。左右の円の直径の差が錯視量です。

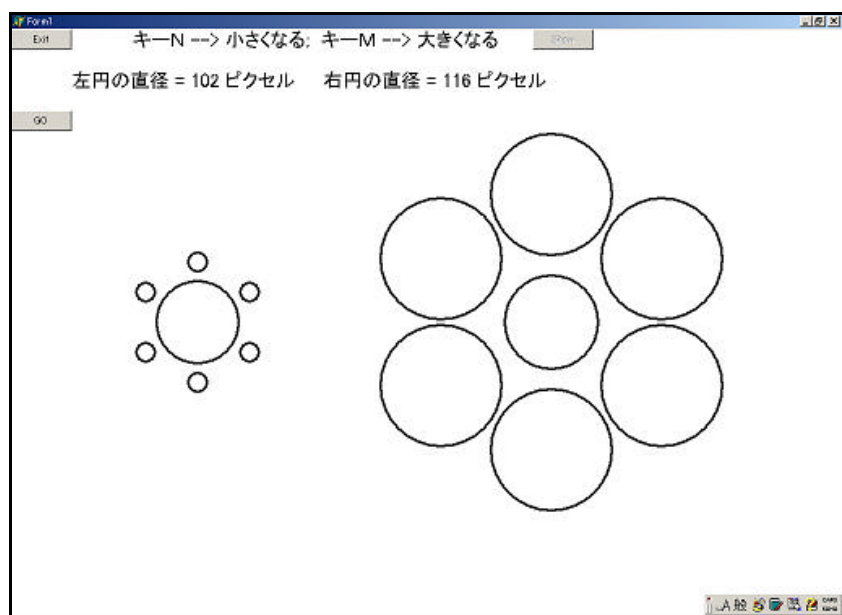


図2 「Show」ボタンのクリックで左右の円の直径の表示

図2の画面で「GO」ボタンをクリックすると図3のような画面になります。

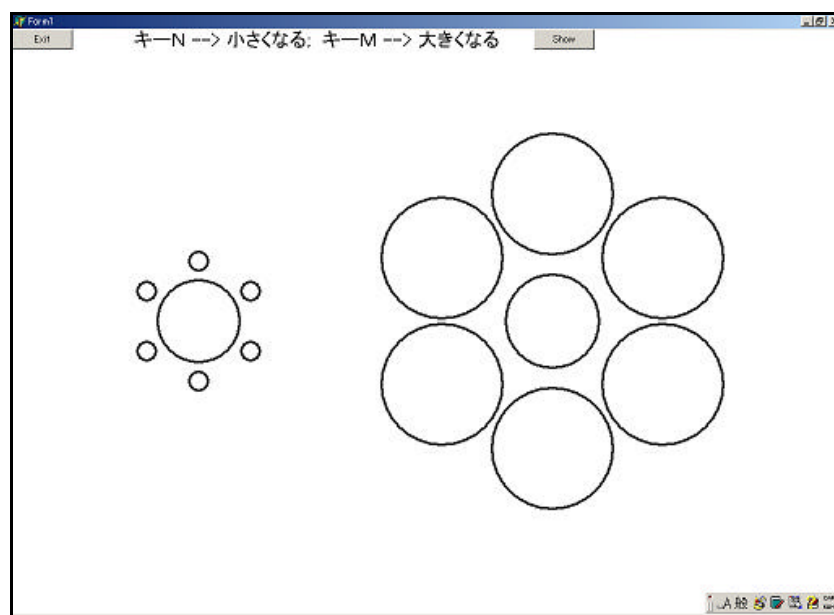


図3 図2の画面で「GO」をクリック

図3の画面で、再び「M」キー、「N」キーの押下で左右の円の大きさを調整することができます。

Exit ボタンをクリックすると、プログラムは終了します。